

移民革命の主役

国民の熱意が政治を動かす

日本人が積極的にかかわることなく、歴史の必然や外圧によって移民国家になるのでは後世に禍根を残す。国民が燃えるような精神の高揚を感じることもない。歴史的な仕事に参加したという達成感も得られない。

移民国家の創立という千年に一回の大舞台で主役を演ずるのは国民だ。移民政策について徹底的に議論し、新しい国づくりに主体的に参加し、人類共同体国家を創るビッグチャンスを自分のものにしてほしい。

国民の熱意が政治を動かし、国の形を変える。同時に、心にしみついた島国根性を改め、博愛の心をはぐくむ。そこから国民が主導的役割を果たす壮大な歴史ドラマが展開される。

私は全面崩壊の危機にある日本を救いたい一心で、日本人と移民が平和共存する移民国家像を描いた。育成型移民政策と移民協定を柱とする日本型移民国家構想である。しかし、それが日本人の心に届いたかどうかについては自信がない。

移民に対する日本人の感情が好転し、日本人が移民と共に生きることに心の底から喜びを感じるようになるまでには長い年月を要するのだろう。

日本人の教養レベルは世界の最高水準にあると言っても過言ではない。八百よろずの神々を信仰する日本人は決して排他的な民族ではない。地球上のどの民族よりも広い心で移民を迎える素養がある。

100年後の日本人は、世界の先頭を切って多民族共同体社会を築いているだろう。100年前にそれを予言した日本人がいたといわれる時代を思い浮かべている。

「移民政策をすすめる会」発足の歴史的意味

6月22日、移民を求める世論の高まりに呼応して、「移民政策をすすめる会」（野田一夫会長、坂中英徳政策アドバイザー）が発足した。野田一夫日本総合研究所会長を長とする20名の精鋭が、各界各層の移民賛成の声を結集し、移民国家創建の歴史的決断を内閣総理大臣にお願いするため立ち上がった。

この会の出発の日、野田一夫先生を囲んでわれわれは何をなすべきかについて自由闊達な討論を行った。老と壮からなる平成の侍が一丸となって国事に奔走する態勢が整った。私は移民政策の専門家の立場から、日本が誇る老闘士・野田一夫先生をしっかり支える決意を表明した。

4月18日の朝日新聞の移民に関する世論調査の結果によると、「永住を希望して日本にやってくる外国人を、今後、移民として受け入れることに賛成ですか。反対ですか」の質問に対して、移民に賛成が51%、移民に反対が34%で、賛成が反対を上回った。これ

は驚くべき数字である。移民受け入れをめぐる世の中の空気は劇的に変わった。今こそ移民推進論者の出番である。

一方、最近の移民亡国論者の動きを見ると、ヘイトスピーチ団体など移民反対派の運動は失速する可能性が高い。国民の圧倒的多数は人種憎悪団体や排外主義者にくみしないことが明らかになった。

人口崩壊の危機が迫る日本を救うべく集まった憂国の士が、移民国家への道は最終段階に入ったとの共通認識に立って、産業界、教育界、地方公共団体など諸団体の移民賛成の声を吸い上げ、掘り起こし、盛り上げ、それを政治に伝える先導役をはたす。

移民政策をすすめる会の初会合では、5時間にわたって熱気あふれる議論が戦わされた。この日88歳の誕生日を迎えられた野田先生は最後まで議論に参加され、大所高所から私たちを導き、私たちに檄を飛ばされた。日本を代表する知識人の警咳に接した若い世代はこの日を生涯忘れないであろう。私は移民革命前夜の感慨にひとりひたっていた。

「2015年6月22日」は移民革命の志士たちが決起した日として日本の歴史に刻まれるであろう。

被災地から移民開国を求める声を上げてほしい

2014年2月の安倍首相の国会答弁、「移民の受け入れに関する国民的議論」の呼びかけに応じ、全国の前頭を切って、人口崩壊と社会崩壊の危機が深まる被災地から移民開国を求める声を上げてほしい。いくら政府が移民政策の導入に慎重な姿勢であっても、被災地の人々の切実な声には耳を傾けざるを得ないであろう。

一般に広まっているイメージと異なり、東日本大震災の被災地の人々は移民がきれいというわけではない。外国から移住してきた人を心から歓迎すると見ている。

隣近所の住民が次々消えてゆく被災地の人たちは、日本人がいなくなってさびれる一方のコミュニティ再生のため、のどから手が出るほど移民にきてほしいと願っている。

政府が移民政策に舵を切り、働き盛りの外国人材を被災地に供給すれば、産業基盤は健在であるから、被災地の経済は生産と消費が増えて活気づくだろう。

存亡の危機にある被災地は、新天地を求めてやってきた移民からパワーをもらって息を吹き返すだろう。

都市部から農村部への人口移動の波を起こそう

家族経営が中心の農業・林業・漁業は、子が親のあとを継がない後継者難が深刻化する一方だ。思い切った手を打たないと、農村・山村・漁村は崩壊への道をまっしぐらということになる。

農林水産業は太古の昔から日本人が産業技術を継承・発展させてきた歴史的産業遺産で

ある。自然と共生しながら食料を生産し、魚介を採り、樹木を育てる。こういう第一次産業のなりわいを価値の低いもののように見るのはまちがっている。殺伐とした都会生活から逃げ出し、人間的な生活ができる田舎生活にひかれる日本人が続出することを願ってやまない。

第一次産業地帯は、豊かな日本文化を育んできた歴史的文化遺産である。日本人の心のふるさとが荒廃すれば日本人の心がすさむ。健全な日本精神を子々孫々に伝えるためにも里山や棚田を保存しなければならない。

若い世代が消えて60代・70代が主力の農村・山村・漁村の自然消滅をどうすればよいとめることができるか。答えははっきりしている。世界から若い人材を迎え入れるのだ。日本の第一次産業が生き残る道は移民政策の活用しかない。

それも直ちにである。日本の伝統産業技術を伝授する師が健在の今やらなければ手おくれになる。

わたしは、若手の外国人を農業高校・水産高校などで教育し、農林水産技術職で受け入れる「人材育成型移民政策」を提案している。同時に、家族単位の経営形態を改め、移民を適正に受け入れる体制を確立すれば、高い産業技術の蓄積がある日本の第一次産業は世界の若者をひきつけられると考えている。

移民政策の導入と軌を一にして日本の若者がふるさと再生に立ち上がり、都市部から農村部への人口移動の波を起こしてほしい。世界の若者の力を借りて日本の産業遺産・文化遺産・自然遺産を死守するのだ。

日本開国の本命は移民開国

日本開国の本命は「移民」というのが世界の常識である。国際社会は、日本が移民の門戸を開かないかぎり、真に国を開いたことにはならないと冷静に見ている。

TPP 交渉は最終段階に入ったようだ。平成の開国劇において TPP への加入は序幕にすぎない。内閣の移民国家宣言で終幕を迎える。政府が TPP への参加に続いて「移民の開国」を決断すれば有終の美を飾れる。

移民先進国が移民の入国の扉を閉じようとしている中、世界中の人びとは日本の移民開国に歓呼の声をあげる。「移民を歓迎する日本」へと、世界の日本イメージは一新する。世界に「移民大国ジャパン」の名がとどろく。このことの持つ世界史的意味はいくら強調してもしすぎることはない。

日本が移民立国を国是とする国になると、人の移動・外交・経済・安全保障の分野で移民送り出し国との関係が強化される。世界の友好国と移民協定を積極的に結ぶなど、移民外交ひいては平和外交が日本外交の大黒柱になる。

わたしは、移民協定に基づき看護師・介護福祉士などを受け入れる体制を早急に確立し、環太平洋経済圏の一員になること、それが日本の生きる道と考えている。環太平洋地域に

は、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど、世界の移民大国が顔をそろえている。

日本が TPP に加入し、50年かけて移民1000万人を計画的に入れる「移民大国」の道を歩めば、移民立国の理念を共有する主要国が環太平洋地域に集結する移民国家連合が形成される。それにとどまらない。加盟国の間で人の移動が激しくなり、しだいに一体感が醸成され、太平洋共同体構想に発展する可能性が出てくる。

安倍晋三首相にお願いがある。日本を主要メンバーとする TPP の最終合意が成立したタイミングで移民国家の名乗りをあげ、日本は米国、カナダなど主要な移民国家と連携して環太平洋地域における人の移動の拡大と平和友好に貢献する旨を世界にアピールしていただきたい。

平和を願う心は人類の DNA にそなわっている

民族や文化の異なる人と人との平和共存の道は決して平坦ではない。人類史の書をひもとけば、異なる民族間の戦争が絶えなかったことは歴然としている。21世紀の今も、人間の心に根深く残る民族の生存競争に起因した戦争が頻発している。縄張り争いや生存闘争は人類を含む動物の本能なのかもしれない。

その一方で、戦争のない世界を願う心はあまねく人類の DNA にそなわっていることも事実である。困難の道であるが、人類の叡智で恒久の世界平和を実現する可能性は全くゼロではないと考えている。

一般論をいえば、自らの民族と文化に誇りを持たない国民は異なる民族と文化に寛容になれない。外国人はそのような国民に敬意を表さない。

日本が移民の受け入れで成功をおさめるには、日本人と他の民族が互いの立場を尊重し合って生きる社会、すなわち多民族共生社会をつくる必要がある。

そのとき日本人に求められるのは、日本人としてのアイデンティティを確認するとともに、異なる民族を対等の存在と認めることである。日本民族の根本精神を堅持するとともに、ほかの民族の固有文化を尊重しなければならない。

世界の民族が移住したいと思う国は、日本人が日本人としての誇りを持ち、移民が移民としての誇りを持てる社会である。

わたしは、移民国家日本の究極の目標として、人類共同体社会の樹立を掲げている。2千年前から日本列島に住んでいる日本人と、21世紀に世界各国から移住してきた移民とが日本国民として一つにまとまる社会だ。

世界の主要民族は、大なり小なり「エスノセントリズム」（民族的自己中心主義）の考えを持っている。しかし、今の日本人には自分たちが最も優秀な民族という民族的優越感はほとんど見られない。世界の諸民族のなかで日本人は謙虚な民族の部類に入るのではないか。

加えて、日本人は古来、人類はもとより動物・植物・鉱物を含む万物平等思想をい
ている。地球上に存在するあらゆる人種・民族に甲乙はないと考える日本人なら、地球
上のすべてのひとびとが永遠の平和をエンジョイする理想世界を築けるのではないかと想像
をたくましくする。